

あそびのまなび

児童発達支援センター・こども療育センター

【 2月のテーマ 自然で遊ぼう（雪遊び） 】

今年もたくさん雪が降りました。子どもたちは大喜びしているのではないのでしょうか？

児童発達支援でも雪が降ると雪遊びをすることがあります。今回は、雪遊びをすることでどんなことを体験することができるのか、またどんな遊び方や楽しみ方ができるのか等をご紹介しますと思います。

全身を使ってみよう（体の使い方）

雪の中では、歩く、よじ登る、寝転ぶ、雪玉を投げる、雪だるまを作る、そりすべりをする等、全身を使って遊ぶことができます。

..... **雪があることで**

足を普段より上げないと歩けなかったり、雪の上に寝転んだ時に起き上がりにくくなったり、長靴が脱げそうになって履き直したり・・と普段は意識していない体の部分を意識して使うことがボディイメージを持つことにつながります。また雪合戦など雪玉を相手のいる方向に向かって投げることや、そり滑りでスピードを感じながら姿勢を保持し、バランスを取りながら滑る（前庭覚）等の体の使い方を経験する機会にもなります。

★★★ みんなで遊ぼう ★★★

雪だるま・そり滑り・雪に寝転ぶ・雪合戦



触れてみよう（触覚・固有覚）

雪は気温や湿度によって触覚が違います。

- ・気温が低く乾燥している⇒ さらさらで崩れやすい
- ・湿度が高い時⇒ 固めると硬くなる

実際に雪に触れる事で雪の硬さや柔らかさ、冷たさ、重さや軽さ、溶ける感覚等も感じることができます。

雪の状態によって力の入れ方（そっと、ぎゅっと、ゆっくり等）や調整の仕方（固有覚）を経験する事ができます。

★★★ 作ってみよう ★★★

雪玉作り

“ぎゅっと” “そっと” 等 手で雪に触れる時にはどんなふうに力の加減をして作るとうまくできるのでしょうか・・・

友だちとの関わり（コミュニケーション）

雪だるま作りで友だちと雪の塊と一緒に転がし、「だんだん大きくなってきたね。」と喜びを共に感じたり、雪合戦で友だちと雪玉を投げ「やったー 当たった！」「こっちも投げよ！」等の会話のやりとりやコミュニケーションをとったりすることで友だちと関わる楽しさを感じる事にもつながっていきます。



見てみよう（視覚）

雪・氷・つらら・雪景色等に関心を持って見る事で、様々な色や形・柔硬性多少（雪の量）・大小・長短（つららの長さ等）を感じとることができます。

★★★ 試してみよう（雪の結晶） ★★★

黒い布の上に少量の雪を置いて虫めがねで見えてみると、小さな六角形の雪の結晶が見えます。どれもみんな違う形をしていてとてもきれいです。

